

歴博を歩く

くらしの植物苑の珍しい花

広報部会

歴博の屋外第7展示室として位置づけられている「くらしの植物苑」は1995年開苑。伝統の桜草、伝統の朝顔、伝統の古典菊、冬の華サザンカと、毎年春夏秋冬に開催される特別企画は歴博の代表的行事の一つで、それぞれの企画展では、好評の苗の有償頒布もあって、期間中は多くの方々が見学や観賞そして苗を求めて訪れます。

植物苑は生活文化を支えてきた植物を系統的に植栽しています。苑内には「食べる」、「治す」、「織る・漉く」、「染める」、「道具を作る」、「塗る・燃やす」という6つのテーマに沿って、様々な植物が植栽され、それぞれの草木の下には名称の由来や用途などを詳しく紹介した説明板があります。



ツクバトリカブト
(2016.11.4)



オウボウシバナ
(2011.8.2)

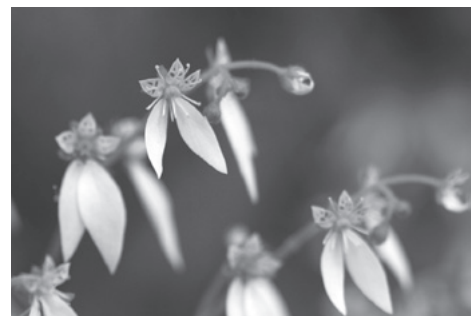
植物苑のパンフレット「花ごよみ」には46種類が載っていますが、最近では70種以上について花のカラー写真のプレートが立てられました。各プレートには名称と開花期とが記載されています。なかには他所ではなかなかお目にかかれない花もあります。例えば、アブラチャン・イヌコリヤナギ（3月）、フッキソウ（4月）、ユキノシタ（6月）、コーホネ・アマ・オウボウシバナ（8月）、ツクバトリカブト（11月）など、特に春から夏にかけて多くの珍しい花が見られます。特にロウバイは、ソシンローバイ・

クロバナローバイ・ナツローバイなど、1月～5月にかけて開花時期の違う4種類があります。

アマチュアカメラマンにとって、くらしの植物苑はいつ訪れても何かの花を撮影できる絶好の場所です。



イヌコリヤナギ（2014.3.23）



ユキノシタ（2013.5.30）



コーホネ（2011.8.2）

（撮影は広報部会）

くらしの植物苑では春先に入苑すると植物苑で採種した花の種のプレゼントがあります（1月、2月の開苑日には、先着20名様に）。筆者はアサガオの種を自宅で蒔き、その中の1粒から見事に変化朝顔が咲きました。また、綿の種からは綿花が採れ、藍の種は芽生えが良く大きく成長し可愛い花を咲かせました。